

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

【一】(評論) 採点基準 (合計 50点)

問一 4点

二

問二 12点

【模範解答例】

「自然に学べ」とは、人間を超越した師としての自然から人間は学ぶべきだという意味であるが、(A 6点)  
「自然を学べ」とは、自然から独立した人間のロゴスによって、自然を徹底的に調べ有用な知識を得よという意味である。(B 6点)

◎採点のポイント

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「自然に学べ」の説明 〓人間を超越した師としての自然から学ぶべきだ(6点)

B 「自然を学べ」の説明 〓人間のロゴスによって、自然を徹底的に調べ有用な知識を得るべきだ(6点)

問三 6点

ハ

問四 8点

【模範解答例】

どんなにロゴスの力を発揮しても自然のすべてを科学的に説明し尽くせないことをふまえ、(A 5点)  
人間を超越した自然を恐れ敬服すること。(B 3点)

◎採点のポイント

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「科学のあさはかさ」の説明 〓ロゴスでは自然のすべては説明し尽くせない(5点)

B 「自然の畏怖に帰依する」の説明 〓自然を恐れ敬服すること(3点)

\* 「恐れる」「尊敬する」だけでは1点減

問五 4点

イ

問六 10点

【模範解答例】

ロゴス化を目指すことよりも生の身体的自然がすばらしいとする価値観が芽生える中で、(A 5点)

科学とはどんな主義主張とも共存できる知識獲得の手法だという考え方も多くあるから。(B 5点)

◎採点のポイント

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A ロゴス化を目指すことよりも生の身体的自然がすばらしいとする価値観(「自然没入主義・「自然のすばらしさ」に直に触れることへの希求)が芽生える(5点)

B 科学とはどんな主義主張とも共存できる(「サイエンスの営みは特殊な主義主張を超越している)知識獲得の手法だ(5点)

(別解例) \*AとBを逆にした説明になってもよい。

現代のサイエンスの営みは特殊な主義主張を超越した知識獲得の手法だという捉え方も多いが、近年、「自然のすばらしさ」に直に触れることへの希求が生まれてきているから。

問七 6点

口

〔二〕(評論) 採点基準 (合計 50点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 喧伝                      2 枯渴 (涸渴)                      3 徒党                      4 繁荣

問二 5点

イ

問三 5点

ホ

問四 8点

【模範解答例】 個人が守られることの (A①) 3点)

引き換えに (A②) 2点)

共同体の一員として生きる)と。(B) 3点 (三〇字)

※A・Bに関して部分採点

A 「個人が守られることの引き換えに」 (5点)

① 「代償」の意味 「目的達成のために失ったもの」の「達成された目的」に当たる部分の説明として、「個人が守られること」内容に3点。

② 「得たものと失ったもの」という関係性から考えて、「引き換えに」という内容に2点。これがないのものは▲2点減でAは△4点。なお、①に加点が無い場合、②単独では加点しない。

△「要求」は組織が要求することなので、「私(筆者)を守ってくれたことの引き換えに」のように、組織に対して「個人」と一般化していないものは▲1点減点。ただし、「個人」ということが明示されていれば、「私」という語が書かれていても減点しない。また、本文のまま「守ってくれた」と過去形のまま示したのも▲1点減。

B 「共同体の一員として生きること」 (3点)

※ 「代償」の意味 「目的達成のために失ったもの」の「失ったもの」に当たる部分の説明。

○ 「組織の一員として生きること」という指摘も可。「組織」は「利益社会」でも可。

△ 「共同体の利益になるように生きること」は、▲1点減点で△2点。

【模範解答例】 共同体や時代から称賛される (A 4点)

自己の信念と感受性を持っていて、それに誠実であること。 (B 4点)

(39字)

◎採点のポイント

※A・Bに関して部分採点。ただし、Aの「称賛」が「非難」の内容となっている場合は、全体×0点。

A 「共同体や時代から称賛される」(4点)

※「前者・後者」の違いを問うもので、直前の一文の「称賛される・非難される」の違いから、「共同体や時代から称賛される」ことの指摘。

※「称賛」するのはB。「共同体・時代」を称賛しているものは×。( )

×逆の内容を指す「共同体や時代から非難される」という指摘の場合は×0点。

B 「自己の信念と感受性を持っていて、それに誠実であること」(4点)

※「称賛される」ための条件としての、「自己の信念と感受性を持っていてそれに誠実であること」の指摘。

▲「誠実であること」が抜けている場合、▲2点減点で△2点。

▲「誠実であること」が、「自己の信念・感受性」でなく、Aとなっているととれる場合、▲2点減点。

【模範解答例】

現代の日本には表現の自由がないということをし、 (A 4点)

社会全体が認識していないため、 (B 4点)

「今・ここ」で生じている個々の物や出来事を重要視する精神を、 (C 4点)

社会の中で持ち続けることが困難になっているということ。 (D 4点)

(94字)

◎採点のポイント

※A・B・C・Dに関して部分採点。ただし、Aの内容が解答の結論として使われている場合、Aの要素として加点しない。(結論違いで全体×にはしない。加点しないに留める。)

ABは筆者が本文全体を通して言いたいことの原因となる現代日本の現状。

A 「現代の日本には表現の自由がないということをし」 (4点)

※問四の考え方(個人が共同体に入らざるを得ない状況があること)からくる、共同体批判が不自由であることの説明。傍線部直前と前の段落でまとめられている内容。

○「表現の自由」は「言論の自由」でも可。

○「現代の日本には個人が共同体に入らざるを得ない(共同体の一員として生きることが強要される)状況がある」というような、「共同体重視」の指摘でも可○4点。単に「共同体主義が広まっている」程度では加点しない。

△「現代の日本」のことであることが解答中に含まれていない場合、▲2点減点、△2点。

B 「社会全体が認識していないため」 (4点)

※問五の考え方(共同体に入っている方が当たり前になっている)ことからくる、共同体批判の自由が奪われていることに無自覚であることの説明。傍線部の直前と前の段落でまとめられている内容。

○共同体に入っている方が当たり前(当然視し疑わない)になっている」という指摘でも可○4点。

※「ので・ため」など、明確な原因・理由を表す語でCDに繋がっていない場合でも不問とする。

◎CDは全体を通して筆者が言いたいこと。筆者が重視する考えを現代日本では持ち続けづらいという意見。

C 「今・ここ」で生じている個々の物や出来事を重要視する精神を」 (4点)

※筆者が重視する考え方の提示。

○「共同体のあり方とは異なる生き方・考え方」という指摘も○4点。

○「非難されることがあっても、自分の信念と感受性に誠実であること」でも可。○4点。

×「自分の信念と感受性に誠実であること」だけでは加点しない。

×「繊細な精神」は、これだけでは何のことかわからないので、これだけでは加点要素にならない。

※「今・ここ」の「今」は本文通り「いま」でももちろん構わない。「」の有無も不問。

△解答例と同じ個所を使って、解答作成している場合、「『今・ここ』で生じている」の内容が抜けているときは▲1点減点。△3点。

D 「社会の中で持ち続けることが困難になっているということ」 (4点)

※ABの状況においてCであることは、「困難」であることの指摘。この要素があればよい。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 (4 点 × 3)

問一・A

【模範解答例】

手紙を書いて (a) 2 点  
おやりなさいませ (b) 1 点  
よ。 (c) 1 点

◎採点のポイント

- a 「手紙を書いて」…2 点。「右大臣の娘に中将が恋文を書く」の内容。
- b 「おやりなさいませ」…1 点。尊敬の補助動詞の意+命令。完答。
- c 「よ。」…1 点。念押し of 終助詞。これだけ正解では加点しない。

問一・D

【模範解答例】

あなたの死を (a) 1 点  
どうして嘆かないでいられますようか。 (b) 3 点

◎採点のポイント

- a 「あなたの死を」…1 点。「中将様の死」の内容。
- b 「どうして嘆かないでいられますようか。」…3 点。反語+可能の助動詞の意+丁寧の補助動詞の意。可能表現の無いものは 1 点の減点。

問一・F

【模範解答例】

こうして生きながらえて (a) 3 点  
おりましたよう。 (b) 1 点

◎採点のポイント

- a 「生き永らえて」…3 点。「ずっと(このまま生きていく)」の内容。「生きていく」だけでは 2 点。「何もできないまま(このようにしている)」消えてしまわずに「だと 1 点。
- b 「おりましたよう。」…1 点。丁寧+意志。完答。「いるのでしよう」でも可。

問二 6点

【模範解答例】幼い頃はともかく、大人になった自分への口出しは (a 4点)

無用である (b 1点)

ということ。 (c 1点) (三四字)

◎採点のポイント

a 「幼い頃はともかく、大人になった自分への口出しは」…4点。「幼い頃の忠告ならいざ知らず、大人になった現在自分への乳母の口出しは」の内容。「乳を飲ませる以外の乳母の忠告」という具体的過ぎるものはマイナス1点とする。

b 「無用である」…1点。「無用である」もしくは「やめてほしい・しなくてよい」・「干渉するな」「必要なし」の意。「及ばない」のままだと説明不足。

c 「ということ」…1点。「～こと」の文末処理。ただしこの箇所の正解だけでは零点。

問三 (各2点×4)

- 1 へ
- 2 ロ
- 3 イ
- 4 ニ

問四 8点

【模範解答例】あなたのことを初めて聞いた日から、 (a 1点)

心はうわの空になって、 (b 2点)

逢坂の関を越えるように (c 4点)

早く逢いたいと待ち焦がれておりました。 (d 1点) (8点)

◎採点のポイント

a 「あなたのことを初めて聞いた日から」…1点。「あなたについてはじめて耳にした」の内容。

b 「心はうわの空になって」…2点。「うわの空になる」「有頂天になる」の意。

c 「逢坂の関を越えるように逢いたい」と…4点。「逢坂の関」と「逢ふ」の掛詞の解釈がきちんと訳出されていること。

d 「早く逢いたいと待ち焦がれておりました。」…1点。「早く～したいと待ち焦がれる」の意。「いっしょく願望」の解釈。



問五 6点

【模範解答例】右大臣の娘との縁談話があることを (a 3点)

姫君に伝えよう (b 2点)

ということ。 (c 1点) (二八字)

◎採点のポイント

a 「右大臣の娘との縁談話があること」：3点。「右大臣の姫君との縁談」の内容。「縁談」だけでは  
零点。「他の人との縁談」だと2点とする。

b 「姫君に伝えよう」：2点。「姫君に伝えようとする」の内容。完答。「ばや」が願望の終助詞であ  
ることを生かすこと。

c 「ということ」：1点。文末処理。ここだけ得点しても零点。

問六 8点

【模範解答例】姫君の、 (a 1点)

右大臣の娘との縁談を聞いても恨まずに良家との縁談を喜び、 (b 4点)

中將に迷惑がからないようにしようとするけなげな (c 3点)

態度。 (a) (五九字)

◎採点のポイント

a 「姫君の、く態度」：1点。「姫君のく態度」の記載。

b 「右大臣の娘との縁談話を聞いても恨まずに良家との縁談を喜び、」：4点。「右大臣の娘との結婚話を恨ま  
ない」という内容の明示。中將の幸福を最優先するという内容に触れているか。

c 「中將に迷惑がからないようにしようとする健気な」：3点。「中將の邪魔にならないように振る舞う健  
気な様子」という内容の明示。自らの立場よりも中將の立場を最優先するという内容が示されていれば、2  
点の加算。「遠慮深い」「謙虚な」「健気な」などの表現があればとにかく1点を与える。

問七 (1点×2)

イ・ニ

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計＝50点)

問一 各2点×4＝8点

a＝いまだいくばくならず(して)

b＝ともじ

c＝しるかに

d＝いえずも

◎採点のポイント

・歴史的仮名遣いは1点。

問二 6点

【模範解答例】

無有が (A 1点)

北側の窓辺に (B 1点)

座っていると、 (C 1点)

急に (D 1点)

西側の廊下に通る人の (E 1点)

声があるのが聞こえた。 (F 1点)

◎採点のポイント

B 「窓に座っている」「窓際」「窓の側」は可。

C 「座っているとき(こ)」も可。「坐」も可。

D 「すぐに」「ふいに」「突然」なども可。

F 「無有が」聞こえた」となっているものは、減点1。

「声があった」「声を聞いた」は不可。

「声がある」「声がある」が不足の場合は0点。

問三 5点

吾輩豈不<sub>下</sub>為<sub>二</sub>一言<sub>一</sub>、以展<sub>中</sub>平生之事<sub>上</sub>也。

問四 8点

【模範解答例】

灯台の精の、 (A 2点)

賓客の集う (B 1点)

楽しい宴席の夜を (C 1点)

明るく照らしたのは、 (D 1点)

自分の働きである (E 3点)

と(いう)こと。

◎採点のポイント

Eの要素(自負・自慢)のないものは0点。

A「精」の要素がないもの：0点。

C「良宴」と「清夜」の両方の要素が必要。どちらか一つは不可。

「良」「清」の訳の無い場合も不可。

E「自分の」はないもの：減点1。

「働き」は「力」なども可。

「自分である」のみで「働き」の要素がないもの：1点

文末：「思い」も可。

問五 4点

二

問六 5点

【模範解答例】

阮籍のような有名な詩人でも、

(A 2点)

四人の詩にはおよばないだろう

(B 3点)

と(いう)こと。

◎採点のポイント

A「有名な」「すぐれた」の要素がないもの：0点。

B 不可能の要素のないものは0点。

「加えることができない」の訳・解釈のみは1点。

「四人の詩」と明記しないもの減点1点。

問七 8点

【模範解答例】

昨夜詩をうたった四人は、 (A 3点)

古い器物が (B 2点)

姿を変えたものであった (C 3点)  
ということ。

◎採点のポイント

A 「昨夜」「詩をうたった」「四人」の要素は各1点。

B 具体的に器物の名を挙げていても可。

ただし、「古い」の要素がないものは減点1。

C 「化けた」「変身」「変化」も可。

問八 8点

ハ